

全科協ニュース

1985年1月1日発行
(通巻第81号)

全国科学博物館協議会

東京都台東区上野公園
国立科学博物館内

☎ 110

Tel. 03-822-0111(大代)

おもな内容：◇今年の抱負 ◇巡回展事業7年の歩み 伊丹市立博物館 ◇企画展「キノコの世界」を終って
栃木県立博物館 ◇昆虫コーナーの展示更新 横須賀市自然博物館 ◇東京都高尾自然博物館の新しい展示
◇会員館園の紹介 福井県立博物館一特に自然展示について一 ◇会員館園の消息

年 頭 に あ た っ て

全国科学博物館協議会

理事長 諸 澤 正 道

全科協の皆さんには、お元気で新年を迎えられたことと存じます。

さて、今年の仕事の一つとして、一昨年初めて試みましたヨーロッパに続いて、昨年の総会で取り上げられましたアメリカ合衆国、カナダの科学系博物館視察研修を計画したいと思います。

科学博物館の職員として、一度は見学しておきたいスミソニアン自然史博物館、ニューヨークの自然史博物館、オンタリオのサイエンスセンター、昨年開館したばかりのサドバリーのサイエンス・ノースなどをコースに組み入れる予定です。この機会に、

できるだけ多く参加され、展示や教育普及活動等の現状を学んで、各館の今後の発展に役立たせていただきたいと思います。

全科協も発足後15年目を迎え、会員館は118館を数えるようになりました。今年は、科学万博一つくば'85が開催され、科学博物館の教育活動に対する期待は大きくなりつつあります。このさい、全国の科学博物館が力を合わせて社会の要望に応じていくためにも、会員館の皆さんの御協力を得て、今年もより一層努力したいと思いますので、よろしく願います。

今 年 の 抱 負

新年おめでとうございます

沖縄県立博物館学芸員 当 山 昌 直

コンピュータ導入の試み

博物館資料の整理は、多くの労力を費やすのだが、納得のいく整理状態になっているとは言い難い。また、従来の整理方法では、必要な情報を取り出すのにも手間取った。このようななかで、当館では、パーソナルコンピュータを利用した博物館資料の整理を自然資料を中心に試みることにした。1985年は、いよいよ本格的にデータを入力し、実際に利用できる段階に至りたいと思っている。1985年を当館のコンピュータ元年にしたい。

北九州市立児童文化科学館 堤 喜久雄

本年は当館の前身である児童文化センターが昭和35年に、そしてプラネタリウムが昭和45年に設置されて、それぞれ25周年と15周年になります。ささやかながら記念の事業を計画しております。

予算も年々厳しくなっていく現状において、来館者の皆様に役に立つ事業や展示を実施するために創意工夫しながら魅力のある館となるように努力していきたいと考えております。

全科協の皆様のご指導をお願いいたします。

今 年 の 抱 負

新 年 お め で と う ご ざ い ま す

九州エネルギー館長 三 苦 學

昨年11月で2年目を迎えた当館は、当初予定を遙かに上回り、40万人の来館者をお迎えしました。これも、我国初めての総合エネルギー展示館ということで、国内外の注目を浴びた結果と思われる。また、昨秋、付帯設備として電気資料館が開館しました。ここでは、歴史のなかで、さまざまな暮らしを照らしてきた各種の灯具、約310点を展示し、当館の充実強化の一翼を担うこととなりました。今年は国内はもちろん、国外の人々にも、なお一層、エネルギーについてのコンセンサスの成立を目指して、館員一同、頑張りますので、今後ともよろしく御指導くださいますようお願いいたします。

愛媛亜熱帯植物園長 窪 田 義 直

昨年の2月、温暖な伊予路にかつてない寒波が襲い、その上積雪に見舞われ、5,60年愛しみ育てた珍しい変種が枯死倒壊するなど多くの損害を蒙った。それは見るに忍びぬ有様だったが、懸命の努力により元の姿に持ち直すことができた。

昨今は県の内外から各種団体の見学者が数多く訪れている。このたび県知事より観光功労賞を受章し、その責任の重大さを痛感している。また、地元の松前町より文化財の指定を受けるなど何かと御協力をいただいている。今後は一層園の充実を図り亜熱帯植物を愛する方々の御期待に添うよう努力致したいと考えている。

香川県自然科学館長 十 河 正 己

文部省の自然教室のモデルとなりました本県の中学2年生を対象にした3泊4日の集団宿泊学習も15年目を迎え、当館指導の野外体験学習も環境教育や自然保護教育をも融合し、更に地域の自然・人文教材をも含めた学習シートの開発も今年中には90シートを目指しています。

また、当館のあります五色台において本年夏には第27回自然公園全国大会の開催予定、そして環境庁の自然保護教育活動推進のモデル地区の候補地、さらに瀬戸大橋架橋を63年に控え、一般来館者も飛躍的に増えることが期待されます。



山口県立山口博物館長 山 本 正 博

生涯教育推進の拠点となる博物館づくりを目標に、昨年にも増して普及活動、資料整理に力を入れてゆきたいと考えています。

さて、今年はふるさと再発見という意味から、7月上旬から8月下旬にかけ、特別展「サンゴ礁」を開催します。この展覧会は観光地として有名になった秋吉台が3億年前の化石サンゴ礁だったことから企画されたものです。本展では、生きたサンゴから現生サンゴ礁生物、日本の化石サンゴ礁資料を展示し、人とサンゴ礁のかかわりあいの中で県土を見なおそうとするものです。

今後も、地方公立博物館としての立場をふまえ、来館者のニーズに答えられる博物館づくりにまい進する所存です。

広島市子ども文化科学館長 溝 口 二 郎

こ	こどもの喜ぶ	この館	子どもたちに
ど	どうして	なぜなの	この疑問
も	もう一度来てみよ	ふれてみよ	「おどろき・夢・
	ためしてみよ	何かある	ロマン」を与え
ぶ	文化の薫りの	その中で	る喜び、それが
(ん)	うれしき友と	語り合い	職員の喜びです。
か	考え深めて	夢求む	今年の特別展
	時と場所とが	ここにある	は、生活に最も
か	科学を深める	この子らが	身近な「空気」
が	がんこと言われて	なお創る	をテーマに展開
く	苦しき中に	先が見え	します。子ども
(館)	ロマンのふくらむ	この館	たちの喜ぶ顔が
			目に浮かびます。

倉敷市立自然史博物館長 浅 沼 昌 平

当館は昭和58年11月3日に開館し、今年やっと3年目を迎えます。本年も昨年に引き続き、第2回特別展として、「高梁川流域のおいたち」を計画中です。高梁川は岡山県三大河川の一つで、その河口近くに倉敷市があり、中流の成羽は、古くから三畳紀の化石産地でした。

この特別展では、流域の化石と岩石を調べ、地質時代と関係づけて、わかり易く展示・解説したいと考えています。

地域の人々、学生・生徒・児童が、郷土の自然に親んでもらえるよう、今年も精一杯やりたいと思っています。

 今年 の 抱 負

和鋼記念館長 清 永 欣 吾

荒神谷遺跡から多量の銅剣が発見されて以来、古代出雲像をめぐる華やかな論議がかわされていますが、出雲の古代製鉄については、まだほとんど分かっていません。

当館は企業博物館の特徴を生かし、昨年は弥生中期のものとする大阪府、京都府出土の鉄斧、古墳時代前期から平安期、江戸中期にわたる出雲地方出土の鉄剣、鉄刀や鉄滓など幅広い調査研究を行ってきました。今年もこの方向に沿って、たたら製鉄の実像に迫る研究調査活動を推進したいと考えています。

和歌山県立自然博物館副館長 土 井 清 司

開館以来2年半、その間、わたしたちは「子どもたちが身近な自然をよく見て、楽しく観察できるように」という願いをこめて、いくつかの事業を実施してきました。

今年度も、更にそれを力強く進めるために、よく知っているつもりでも、案外、正しく知らないメダカをとりあげ、特別展「メダカの学校」を企画しています。

講演会や談話会、磯や山川での自然観察教室等すべての事業を通じて和歌山のすぐれた自然をしっかりとみつめ、楽しく学ぶことができる子どもたちを育てていきたいと思っています。

生駒山宇宙科学館長 濱 根 洋

過ぎ去った1984年は、当館の開館15周年を記念して、プラネタリウムの改新を行い、約3万人の入館者増をみました。古い時代のコトワザで言えば、元服をすませいよいよ成年期に入ったわけです。1985年は、この余勢をかけて、更に飛躍をめざしています。76年振りに帰ってくるハレー彗星の話題を中心に、目下、“帰ってくるスペース・トレイン・ハレー彗星のすべて PART II” 特別展の企画をまとめています。先の1年で得た教訓は、教育施設で大切なことは、設備よりも“人”であり、人々との“ふれ合い”、“社会教育屋根性”ということです。

放送文化館 池 田 達

毎日放送放送文化館は、御高承の如く放送文化の集大成を目指してスタートした特異の文化館であります。前館長北尾正康氏はその豊富な経験を基に今日の隆盛を築かれたわけですが、後任の私もその軌跡を受け継ぎ更に充実飛躍を期したいと考えております。今後ニューメディア時代を迎えてその存在の価値は益々高まることになるでしょう。御期待いただきたいと思います。

神戸市立青少年科学館長 佐 野 雄一郎

昨年4月29日の開館以来、お陰様で約30万人の入館者を迎えることができました。

本年は、昨年の貴重な経験を踏まえ、常設展示の充実、新しい企画によるプラネタリウム番組の制作を中心に置き、特別展、講演会の開催や科学工作教室・天体観望会などの各種教室の実施に積極的に取り組んでいきます。

また、友の会や少年少女発明クラブの運営にも力を注ぎ、より多くの方々に御来館いただけるよう努力してまいります。どうかよろしく願いいたします。

神宮徴古館農業館長 幡 掛 正 浩

新収蔵庫を含む管理棟建設工事の起工式を昨年9月と行い、今秋竣工予定であり、一部展示面積も拡充するため、当館の特殊性を活かす展示品の充実整備に努力し、地域社会に報いるためにも飛躍した年となるよう頑張りたいと念願しております。

諸館の皆様の御発展を、お祈りし、御指導をよろしく願いたします。

伊良湖自然科学博物館長 伊 藤 務

平素は当館の活動に御協力をいただきありがとうございます。

当館は、太平洋の黒潮に恵まれた常春の国渥美半島の先端に位置します。風光明媚な伊良岬の中で、地元の小・中学校、子供会等の協力を得て特別展、自然科学教室の開催などローカル博物館として活動しています。

恒例の夏期特別展は、本年度で第10回目を数えます。今回は、人骨の豊原渥美半島の貝塚、特に昨年春に発掘された伊川津貝塚にスポットをあて、私たちの遠い祖先である縄文人の生活をふりかえる計画であります。

市立名古屋科学館長 佐 藤 知 雄

新年に期待

近年は科学の進歩が目覚ましいので、1年がまことに短く感じられる。ここに新年を迎えたが、この1年に何が出現するのか、楽しみと言うよりむしろ恐ろしい気がする。科学博物館がこの進歩に追隨していくのは容易ならぬことである。私どもの科学館では物理学、化学と科学技術並びに天文に関する展示と実演（プラネタリウムを含む）を行ってきたが、最近の科学が包含する範囲から見ると、その一部分にすぎないと思う。今後はバイオテクノロジーを含む生命の科学に関する部門に進展してゆきたいと願っている。

 今 年 の 抱 負

新年おめでとうございます

中部電力広報室電気文化会館建設事務局
広報室長 岡村 雄 策

電気文化会館は中部電力が名古屋市の中心、伏見に昭和61年春の完成をめざして建設を進めているものです。会館の中心は電気の科学館です。ここでは日本で初めて常設される観客参加の双方向映像シアターや3D方式による立体映画があり電気について楽しく学んでいただけます。また、マジックビジョンを使って原子力発電のしくみを御紹介するアトムシアターもあります。

このほか、この会館にはコンサートホールやギャラリーなどの文化施設もあり、開館後は大勢の方々に利用していただきたいと願っております。

博物館明治村館長 関野 克

明治村は建築の野外博物館であると同時に個別的な内容をもつ博物館の複合体で、科学技術史、産業史の分野も含まれている。明治の汽車と電車が動態展示として村内交通機関に利用されている。鉄道寮新橋工場は機械館である。その展示の中から、本年は科学万博の政府出展「歴史館」に、富岡製糸所に設置された蒸気機関と、工部省の製作による菊花御紋章付平削盤が出陳される。また、北里研究所本館は医学館として北里柴三郎博士の細菌学上の業績の展示を行っており、結核との闘い百年の展示を一昨年常設した。本年には日本初期のレントゲン装置を結核研究所から寄贈を受けて、名古屋衛成病院に展示する準備を進めている。

内藤記念くすり博物館長 青木 允 夫

来館者数の増加、収蔵資料、図書増加に対応するため、新館（展示場）を隣接して建設します。2階建て延1200平方メートルで、1月16日起工式、年内完成、オープンは明年秋を予定しています。

わが国唯一のくすり博物館として開館以来14年、その間の経験を活かして新しい展示を続けています。薬の歴史のほか、薬の正しい使い方、健康、栄養についての展示も実施したいと考えています。

福井県立博物館学芸員 東 洋 一

来年度は開館2年目を迎えることとなり、今年度の反省を踏まえて教育普及事業の充実に力を入れたいと思っている。また、今年度手つかずだった資料の整理に着手しなければならないと思っている。

また、61年春季開催予定の特別展の準備作業を推進し

なければならぬ年だ。日本海の地史をテーマにした展示を企画したい。さらに資料の検索等の管理システムにコンピューターを導入すべく検討を続けたい。

新潟県立自然科学館長 笠原 健一郎

開館4年目を迎え運営の基礎も整ってきました。この間の入館者数はおよそ70万人、しかし、なおもっと多くの方がたから利用していただきたいと考えています。したがって本年は、次のことに重点を置き運営を充実していく考えです。

1. プラネタリウム学習投映の実施を機に、小・中学校の一層の利用を進める。
2. 各種の事業は精選するとともに、8月、特別展「三次元の映像…ホログラフィ展」を実施する。
3. 展示更新について具体的な計画段階に入る。
4. 昨年10月1日に開館した県立上越科学館との連携を図る。

財団法人佐渡博物館長 北見 角太郎

独立採算による総合博物館として、夢と現実には大きなギャップがありますが、地域に根ざした親しみのある博物館を旨として努力したいと考えています。

自然科学の分野では、春には「佐渡の野鳥展」を開催し、佐渡特産のサドヒゲシドリやサドマイマイおよびサドサンショウウオ、それにキタキジなどの飼育と増殖も行い、島民が郷土愛や自然保護により理解を深めるよう役立てたいと思います。そして、館報と研究報告の復刊もしたいところです。

富山市科学文化センター館長 長井 真 隆

当館の建設準備事務局時代は昭和52年の頃。コンピュータがぼつぼつ話題になった頃だ。ロボットはまだだった。それが数年にして、家庭にまで入り込んできた。科学技術のすごい加速度に驚いている。

今年は、当館が開館して6年目に入った。理工展示室の展示替えを終え、6月に公開する。テーマは「水と雪の世界」。当然のことだが、ここでもコンピュータが活躍する。3年ひと昔の時代を迎えて、思いを新たにしている。



 今 年 の 抱 負

神奈川県立青少年センター館長 小手 龍 雄

当センターは、県の青少年の健やかな成長を願い、科学、芸術、文化に親しむ施設として全国に先がけて、昭和37年に創設され、本年度で23年目になります。特色としては、県下の中学校と連携をとり、学習投影を主としたプラネタリウム、各種の実験を行える科学教室、科学原理を展示した科学展示場で学校でできない実習、実験を行っているほか、演劇を主とした回り舞台によるホール、音楽室、美術室、工作室、児童図書室等があり、多彩な事業を展開しております。

最近、各市町村でも施設を充実しつつあるなか、センターが青少年の科学、芸術、文化活動の拠点となるべく、将来にむけて大きく飛躍したいと念願しております。

神奈川県立博物館長 前 場 廣

年頭に当たり、皆様の御発展をお祈り申し上げます。

当館は昭和62年3月に開館20周年を迎えます。会計年度のうえからは61年度ということになりますので、20周年を間近にひかえた本年度は、より充実した館活動の推進を目指して、この機会に展示場全体の見直しや収蔵施設の充実などの諸問題の検討をたまたま県が再び行うこととなった総合計画の改定に整合させて進めてゆき、その実現をはかってゆきたいと思っています。

東芝科学館長 佐 藤 繁

各館の御発展と皆様方の御多幸をお祈り致します。

さて、世は「ニューメディア」なる言葉に誰もが振り回されっぱなしの今日この頃、これが好むと好まざるとに関係なく、近未来の人間生活及び、社会の環境変化に大きく係わることは確実である。今年はこの途轍もない巨大な「ニューメディア」そのものを不特定多数の方々に、面白く、楽しく、抵抗なく理解できるように、館として更に一步踏み込んだシステム展示をいかに展開するかを課題に取り上げ、その解決に答えたい。

NHK放送博物館長 来 栖 信 夫

NHKはこの3月で満60年を迎える。このため3月19日から24日まで日本橋三越本店で放送開始60周年記念展を開くが、これには高品位テレビなど新技術の粋とともに歴史の歩みを証明する放送博物館の資料類も展示されて、久しぶりに華やかな脚光を浴びる。一方愛宕山の放送博物館では2月5日から3月末まで同じく記念特別展を開くが、期間中博物館を会場に「ひるのプレゼント」の中継計画もあり、新米館長大いそがしの年になりそうだ。

科学技術館長 久 保 俊 彦

エレクトロニクス、新素材、バイオニクス関連などのハイテクノロジーは、本年も一層加速されて開発が進められるものと考えます。

また、本年は3月17日オープンの科学万博つくば'85という科学技術のエポックが控えております。

これらをとおして国民の科学技術に対する関心は、一段と盛り上がるものと予想いたします。

科学技術館は、国民の盛り上がった科学技術への関心を定着させ、永続させることにいささかでも貢献してまいりたい。特に、当館利用者の大半を占める小学生層は、次代を担う世代でもありますが、彼等が当館の利用をとおして科学技術に親しみをもちやすいように館活動を展開してまいりたいと考えます。

交通博物館長・交通科学館長 中 村 卓

東京の交通博物館につきましては、昨年は図らずもダイムラー・ベンツ社から、自走も可能な“ベンツ1号車”のレプリカを頂戴し、自動車室の整備が計画以上に充実いたしました。

今年、春には東北・上越新幹線の上野乗入れが実現し、同時に260キロ運転となり、秋には東海・山陽道新幹線の一部2階式を含む“ニュー新幹線電車”が走るなど話題が豊富となります。これらに合わせ来館者の皆様に、より細かな解説をするため、“生まれかわる新幹線室”の新設計画をしています。

大阪の交通科学館につきましては、昨年は実物のディーゼル機関車を2両保存することができましたが、今年も引き続き実物車両として、特に戦後最初の電車群の保存に力点を置くつもりであります。

東西両館合わせまして、新しい知識の普及と古い資料の保存に努めたいと考えております。

サンシャインプラネタリウム館長 宮 垣 喜代治

今年の10月5日で満6周年を迎えます。

本年は、年末にかけてハレー彗星が76年ぶりに地球に接近しますので、ハレー彗星に関連した新番組を多数考えております。まず昨年に引き続き、大好評であった物語形式の一般向き投影を年間で4本計画いたしております。その他にも、各対象別の投影も充実させる予定です。

また、恒例となった天体写真コンテスト入賞作品展、天体観望会、講演会等も計画しております。

今後とも幅広い様々な活動を重ねる所存でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

 今 年 の 抱 負

新年おめでとうございます

たばこと塩の博物館長 奥田 雅 瑞

当館は、昭和53年に開館以来、今年で7周年を迎えます。特に今年は、全面改装中だった常設展示が、1月中旬には、新しい内容でご覧いただけるようになり、館活動の上でも、大きな区切りの年といえます。

新しい展示では、映像へのレーザーディスクの導入やマイコンを使った選択式の映像プログラムの制作の他、新しく試みたものもありますので、ご覧いただき、御意見を聞かせ願えれば幸いです。また、昭和60年度も、6回の企画展を計画中ですが、夏の期間には、塩を科学的に捉えた特別展の開催も予定しております。

通信博物館長 鎌原 徹

今年も昨年に引き続き忙しい年になりそうです。

当館は、現在の大手町のビルに移ってから昨年で20年を迎えましたが、これを契機として、常設展示の大幅な改装、建物と附帯設備の改修などを行うこととなり、現在進行中です。それが今年に入ってから本格化します。

それに加えて、今年、日本における近代郵便の父といわれる前島密の生誕150年に当たるので、特別展を中心とした記念行事を前島密生誕の地である上越市で開催することとしております。

職員一同力を合わせて努力して参りますので、皆様の御協力をお願いいたします。

電気通信科学館長 白根 禮 吉

当館にとり設立10周年にあたる本年は画期的な年になります。まず昨年12月に、いわゆる電電改革法が成立し、本年は電電公社の民営化とともに、第2電電、VAN事業など競争が導入され、情報通信新時代に入りますが、当館は全面的にこれに対応することになります。第2に本年3月から半年間にわたり「科学万博——つくば'85」が開かれ、でんでんINS館が展示されますが、当館はそのサテライト会場として、その模様をつぶさに都内でお見せすることになります。第3に、昨年9月に三鷹で実験開始した高度情報システム（INS）は、2年目を迎え、INS網は全国的拡充の緒につきますが、当館はINS展示場を中心に、問合せ案内にもキメ細かい配慮を行い、特展や教室を含め、電信電話の基礎から近未来のINSに至る迄の普及とPRを図る考えです。

天文博物館五島プラネタリウム館長

鏑木 政 岐

いよいよ1986年3月に76年振りでハレー彗星が太陽に接近するので、地球から見ることが出来る。昭和60年度は年間を通して、これをテーマとしたキャンペーンを行う。8月には特別展「ハレー彗星」を計画中である。

昨年暮にはドーム内天井の塗装工事も完了したので、本年はテープレコーダーの更新、更に投影内容の充実と魅力ある解説を目途に推進いたしたい。

東京都高尾自然科学博物館長 鹿山 実

一昨年の滑空式「ムササビ」ジオラマ更新に続き、59年度には「東京にすむけものたち」のジオラマと野鳥「カラ類」の展示更新を行いました。特にカラ類15羽については鳥類保護思想普及の観点からバード・カービングをとり入れたところ、素晴らしい出来栄で実物そっくりだと入館者に好評でした。また、12月中旬には都内で発掘されたナウマン象化石骨の全身骨格レプリカを展示公開することができました。本年も引き続き館内外の環境整備(全館照明設備改修、外壁塗装)や野鳥コーナーの整備などを図り、博物館活動の充実と発展に努めてまいりたいと考えております。

東京農工大学工学部附属繊維博物館長

金子 六 郎

今年こそ

干支の牛のように粘り強く頑張るつもりです。さて当館では従来に引き続き理工系学生芸員の養成を通じて全科協会員館園のお役に立つべく努力を続けております。

応用物理・電気電子・機械・化学・材料・情報・高分子など幅広い専攻学科の学生たちが博物館に興味をもち資格を取得しております。今年こそ彼等の希望を实らせたいと念願しておりますので御指導・御協力を賜りますようお願い致します。

(財)目黒寄生虫館長 亀谷 了

30年史誌の発行

私設自然史科学博物館として、研究活動を主体とした博物館建設に全力をあげて邁進して、すでに30年になる。幸いに、世界において、少なくとも5位に列する内容を包蔵し、研究活動も活発に行われている。本年は30年史を編纂し、同学の士の参考に供したいと念願している。本年頭初の所感はその通りである。

今年 の 抱 負

労働省産業安全研究所長(産業安全技術館)

森 宣 制

産業安全技術館の年間入館者数は昭和58年度に初めて45,000台を超え、さらに59年度においても各月の増加率は11~40%の伸びを示し、「産業用ロボットの安全」特別展の参観者数は新館開館以来の最高を記録する状況にあり、これら利用者の期待にこたえるためにも常設展示の全面的更新が緊急の課題となっています。しかしながらきびしい国家財政を反映して、58、59年の2年間に2コーナーの改装にとどまりましたが、昭和60年はさらに本格的な展示更新計画を策定し、「メカトロ時代における機械安全」をテーマとし、さらに革新的な展示手法を導入し、魅力ある技術館を実現したいと考えています。

千葉市立郷土博物館長 近 田 衛

今年につくば科学万博の開幕とともに、科学に対する関心も一段と高まることでしょう。同時に身近にある科学系博物館の果たす役割も大きく見直されることと思います。当館の科学部門としてはプラネタリウムですが、投影の他、観望会、天文講座、企画展など事業も多く、天文普及に活躍しています。今年の夏休みには「ハレー彗星展」も開催する予定でおります。今後も博物館としての使命も果たすべく努力してまいりますので、皆様の御協力よろしくお願い致します。

アリタキ・アーボレータム園長 有 瀧 龍 雄

昨年は分園内の天然記念物「タブノキ」の菌類被害部の大外科治療を7月4日~26日におこなった。8月1日には「フランス政府環境と生活の質庁」の造園都市計画家サラ・ジュニ・ザルマティ女史が当市がアメティタウンに指定された機会に来越、当園を訪れた。また、当園として市の環境美化を側面から協力するため、中国渡来のアブラナ科植物「諸葛菜 (*Orchophragmus violaceus*)」の種子2,000袋を9月に一般市民に無償配布した。又濠州キャンベルタウン市の越谷公園に越谷市長の要請で山桜と大島桜種子計600粒を空輸した。本年も一層地域の緑化環境美化に微力を尽したい所存であります。



川口市立児童文化センター館長 豊 田 四 郎

当館の常設展示のうち「乗り物の科学」の部屋のHOゲージの模型コーナーは、メカ好きの子どもたちで黒山の人だかりになります。それだけに酷使されて、このところトラブルも多くなりました。新しい年は、ここを重点的に改装する予定で、いま、どんなレイアウトにするか検討中です。一方、児童のための科学館として魅力ある行事展開をしてゆくための基盤づくりも、大きな課題となっています。

群馬県立歴史博物館長 梅 沢 博 幸

昭和54年の開館以来6年目を迎え、入館者も100万人を超えようとしています。その間各種事業の充実・活発化に力を注いできましたが、自然・考古・歴史・民俗・美術工芸の各部門において、貴重な資料の寄贈や新発見があいついでいます。

本館の展示は「目で見える群馬の歴史」という考えでおこなっていますが、生涯教育にふさわしい展示、調査研究・資料収集、教育普及の各活動の拡充にとりくんでいるところであります。御協力のほどよろしく願いたいいたします。

栃木県立博物館長 渡 辺 幹 雄

開館3年目を迎える本年は、年4回の企画展を予定しています。春は、「栃木の高山植物展」を、夏は、「絵馬展」を、秋は、「足利氏の歴史展」を、冬には、「八溝山脈の自然展」をそれぞれ計画しております。

また、観察会・見学会・講演会・各種講座等の普及教育事業を一層定着させて、県民文化の向上及び発展に寄与するとともに、広く皆様方に愛され、親しまれる博物館としていくことを目標としております。

斎藤報恩会自然史博物館理事 斎 藤 温 次 郎

ことしはEXPO'85が開催される。国民全般が物質文明の追求から、精神的な文化志向へと変化しつつある時に開かれる、科学博はどのように一般にうけとめられ、科学に対する啓蒙がなされるか、科学系の博物館にとって、甚だ関心のもたれるところである。これらをつまみえて、今年じっくりと、21世紀に向けて進展する博物館の基礎固めの第一歩の年としたいと思っている。

全科協諸館園の御発展を祈ります。

 今年 の 抱 負

新年おめでとうございます

山形県立博物館長 大友 義 助

今年は、数年来整備をすすめてきたヤマガタダイカイギウの骨格レプリカが完成しますので、これに因んで特別展「化石が語る太古のロマン」や、山形県の母なる川最上川をテーマとする特別企画展「最上川——紅花の道——」を予定しています。御指導を賜わりたくよろしくお願ひ申し上げます。

秋田県立子ども博物館学芸主事 佐藤 邦 祐

当館もオープンして6年目、新鮮さに於てはいかに知恵を結集しても、展示物の更新に力んでも開設当時のあざやかさを醸し出すことはできない。

巨大礼賛、先端技術にばかり眼が走る御時世にあって時代おくれと言われるのを覚悟で5年の経験がつくりだす安定感を大切に、同じ色紙が作る模様の変化を楽しませてくれる万華鏡のごとく、子どもたちの期待にこたえる博物館にしていきたい。時代おくれに見えるものの中にある深い意味をみなおし進んでいきたい。

秋田県立博物館長 畠 山 芳 郎

昨年は開館10周年をむかえ、その記念行事を行ったところです。今後一層、県土の自然と人文の解明に努力し、地域文化の発展に寄与してまいりたい所存です。

さて、地質部門の秋田の化石を網羅的、時代順の展示から植物や貝の変化など、それぞれ独立した5つの小テーマを設けて昨年の11月に展示替えしました。

新年度は県北部の能代・山本地方の調査研究の成果を展示する「地域展」がメインになろうかと思ひます。

なお、展示手法に新しい機器の導入をはかり、情報化時代に対応した博物館として漸次改善をはかりたいと考えております。

岩手県立博物館長 板 橋 源

当館は今年10月で開館満5年を迎えます。昨年は「岩手の植物展」を含む3つの企画展を開催し、大変好評のうちを終了することができました。また、岩手県内で発見された化石を紹介する「岩手県内化石めぐり」を刊行し、教育現場で役立つ内容と高く評価されました。

今年は昭和47年に県南の前沢町生母で発掘され、全国的に話題を呼んだひげ鯨類化石を、産出状態で復元した、いわゆる産状レプリカを展示公開する予定です。さらに、地域に密着した自然史講座を開講し、開かれ、行動する博物館を目指し、鋭意努力しているところです。

盛岡市子ども科学館長 村 田 孝 介

60年度は開館3年目を迎えました。市民や子どもの望みをふまえ、内容の充実を図っていきたいと思ひます。

まず、多種多様な内容を持った講座、教室を設けて普及教育の充実。プラネタリウムの一般及び学習投映用ソフトの充実。また、プラネタリウムソフトの製作、星を見る会、星の写真展（特別展）等の開催に当たっては60年度中に地球に接近する「ハレーすい星」を1つの中心課題として年間を通じて取りあげていく予定です。

いずれにしても、私ども職員一同効率的運営を願っていますので、皆様の御指導をお願い申し上げます。

釧路市青少年科学館長 寺 島 敏 治

去年は第8回特別展、カナダ科学移動展で各方面の御協力をいただき大成功のうちに幕をとじることができました。

今年、開館22周年をむかえた当館は、東北北海道唯一の単独施設として日本列島の“北方”から科学の諸課題に答えていく事業を職員一丸となって展開いたします。

〔教育活動〕

巡 回 展 事 業 7 年 の 歩 み

伊 丹 市 立 博 物 館

昭和53年度から、当館では文部省社会教育施設活動費補助金をいただいて、巡回展事業を実施している。この事業を始めた当時のねらいは、日頃当館に足を運ぶ機会が少ない遠隔地に住む少年や婦人・高齢者などに対する啓蒙普及にあり、同時に、当館が市内の諸地域に深く入り込んで積極的に地域社会に働きかけることで、当館の存在を強く訴えようというものであった。

これまでに実施した巡回展のテーマは、東南アジアの昆虫展、動物資料展、村絵図にさぐる地域村々の歴史展、神津の自然と歴史展、武庫川流域の自然と歴史展などである。昭和58年度は、身のまわりの生物たちをとりあげ、伊丹市内で見られる動植物の標本・写真・分布図・図表などの展示と講座、観察会を行った。会期は10月から11月の約2カ月間で、その間に市内の共同利用施設・児童

センター・小学校の3会場を巡回した。

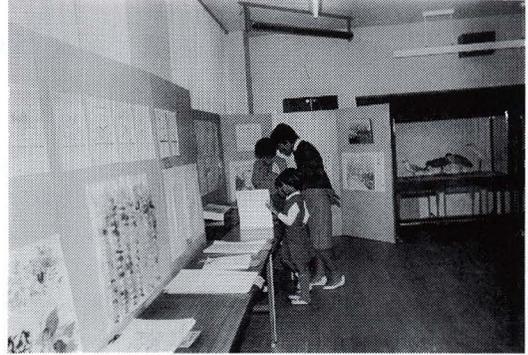
スタート以来7年を経過し、今日ようやく資料や物品の運搬から会場設営・撤収のパターンも安定し、手際よく事業が展開できるようになったところである。しかし、運営面については必ずしも固定化しているわけではなく、回を追うたびに少しずつ変化している。ここでは、その経過と当面している課題について少し御紹介してみたい。

巡回展事業を始めて3年間ほどは、たとえば東南アジアの昆虫展のように、当館で独自に検討した企画を市内諸地域に巡回していた。昭和56年度からは、市域を4ブロックに分け、年次計画で自然と歴史の両面から展示予定地域の資料調査を事前に行い、その成果を地元で展示する方法に切り変えた。〇〇の自然と歴史展などと称している企画がそれである。

その方向転換のきっかけは、それまでの巡回展で見学に来られた地元の人たちが、案外身のまわりの自然物や地域の歴史に無関心なことに気がついたからである。そして、できれば地域色の濃い展示を機会に、市内諸地域の人々との協力関係をより親密なものにできないだろうか。また一方、事前の調査や展示の諸準備、さらに展示そのものや講座を進めていくなかで、地域に埋もれたままになっている資料の新たな収集ができるかも知れないという期待もあった。

この試みは一応成功しており、地元の人たちのなかにも巡回展の積極的な協力者が現れ、最近では協力者たちの調査成果に負う展示コーナーも少なくない。が、問題がないわけではない。たとえば、展示企画に取り上げられなかった地域の人たちからは見放されがちで、見学者数に一定の限界があること、また、地域別に年次計画を組んでいるために一巡するのに最低4年はかかること、下準備に労力がかかりすぎることなどがあげられる。

ところで、当初から一貫して共同利用施設や公民館の分館などを会場としてきたが、昭和58年度には学校との



小学校の空教室を使った展示

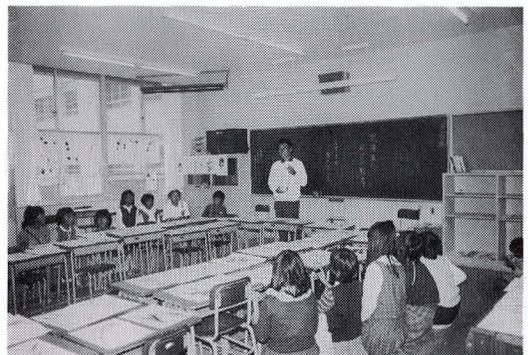
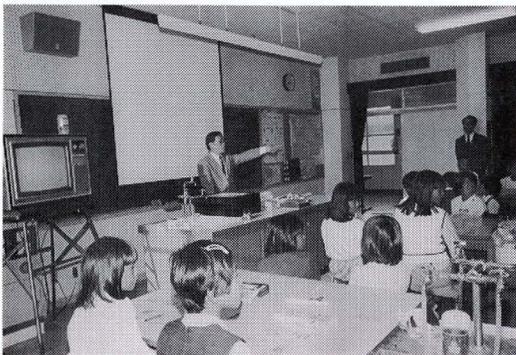
連携を図る目的で、小学校を会場の1つに加えた。

小学校側にも、授業中にクラス単位で全児童を引卒業・解説指導の機会を設けていただくなどの協力を得、児童の間では好評であった。しかし、施設管理上の問題から対象が当該小学校の児童だけに制限されたことは、後の大きな課題として残され、未だに解決していない。

昭和59年度は、当初より小学校の理科の授業または課外活動のなかで取り組まれているプログラムとのかかわりをもたせるために、対象校の理科担当教諭と事前に話し合う機会をもち、協同して企画を進めた。児童の作品は、最終的に展示構成などを調整する時間的余裕がなく、展示として不十分であったが、児童の間ではこの部分ももっとも人気が高かった。

いま、こうして巡回展事業7年の経過をふりかえってみると、その間にはまさに博物館主導型から市民参加型の巡回展に移り変わる過程にあったと言えることができるかも知れない。本当の意味での市民参加型に変わるにはまだまだしばらくかかるだろうし、その頃にはまた新たな要素が生じる可能性もある。いずれにしても、この巡回展事業についてはできるだけ地域社会のニーズに合わせ、すべての面で柔軟性を失わないようにしたいと考えている。

(坂根隆治)



授業中のクラス見学とは別に、博物館主催の講座や説明会を実施。4年生以上の自由参加としたが、下級生でも結構上級生と対等に発言していたのが印象的。

〔特別展〕

企画展「キノコの世界」を終わって

栃 木 県 立 博 物 館

企画展「キノコの世界」(S59.9.30~11.4)は、当館が開館した昭和57年度に、すでに開催が決定していたものである。2年間の準備期間であったが、それ以前より菌類の調査収集等が行われていたので、実質的には5年間の準備を要したことになる。この間、栃木県キノコ同好会の結成があり、いろいろな面で協力を得られたことは大変ありがたかった。

栃木県内には豊かな自然があり、そこには実にさまざまな種類のキノコが発生する。これらのキノコの生活の多様さを知ってもらうこととともに、あわせて自然界で果たすキノコの役割を知り、それを通して人々に自然に対する関心を高めてもらうことが展示のねらいであった。そのため、展示期間を秋のキノコのシーズンに合わせ、その期間中に講演会「キノコと人生」とキノコ観察会の二つの行事を持った。

私たちは日常、キノコという言葉は何気なく使っている。しかし、その実体について問われると、なかなか明解な答えは出ないものである。キノコとは一体どういうものなのか。その生物学的な意味も人間生活との関わり合いなどを知ってもらうことをねらいとしてシナリオを作成した。

展示の内容は、①キノコとは何か、②いろいろなカビ、キノコ、③栃木のキノコ、④キノコと生物、⑤食菌と毒菌、⑥キノコの化学、⑦キノコの栽培、⑧キノコと民俗とし、キノコ全般について広く来館者の興味を引くように工夫した。

キノコの展示でいつも悩まされるのは、軟らかいキノコをどういう形で展示するかである。液浸標本は退色や臭気の問題がある。また、他資料の保存にも影響を及ぼしかねないので、今回は液浸標本を全廃した。その代わりに、レプリカと真空凍結乾燥標本を作製することで、この問題をクリアした。

真空凍結乾燥器は非常に高価であるが、中～小型のキノコであれば容易に乾燥することができ、マツタケ目や腹菌類のキノコの標本化には非常に有効であった。特に、形や色彩の保存には優れている。

キノコ関係の資料は小型のものが多く、展示が平面的、羅列的になるきらいがあるので、極力カラフルなパネルを補うようにしたが、展示空間の処理・対策についてはなお工夫が必要であった。

企画展示室には面積(270㎡)の面から制約があり、展示面積の配分に工夫を要した。結局、資料としては解説



パネル類(37点)、カラーパネル(132点)、キノコレプリカ(62点)、実物標本(ラベル数で272点)の合計503点となった。

開館中は、常時解説者1名が来館者の質問に対応するとともに、土曜日には定時解説(サタデー・トーク)を行い、サービスに務めたことは非常に好評であった。

キノコは私たちににとっては身近なものであるため、連日、多くの来館者があり、キノコについての質問・問合せが寄せられた。特に、キノコの食・毒を問うものが多く、開催期間中に94件の鑑定依頼と17件の電話照会があった。今さらながらキノコに対する人々の関心の深さに驚かされると同時に、この分野の調査研究と普及教育活動の遅れを知らされた。

企画展示を開くにあたり、各方面の方々からいろいろなアドバイスをいただいたこと、また、資料の借用等で多くの人から御協力をいただいたことは実に有難いことであった。

寄せられた質問や意見については、関係者が整理して、今後の博物館活動に活かすよう工夫していきたいと思う。

なお開催日数は36日。この間の入館者は29,313人であった。

(高岡正之)

〔新しい展示〕

昆虫コーナーの展示更新

横須賀市自然博物館

昭和59年は昆虫および魚類のコーナーを更新したが、本ニュース前号の魚類コーナーに続いて、ここでは筆者の担当した昆虫コーナーの展示更新についてその経過と今後の課題などを記す。

昆虫コーナーの展示計画

展示更新は以下の基本的考え方に従い実施した。1)地域の特性を生かし、博物館の調査研究活動で蓄積された資料に基づく展示。2)写真や本に代えられない無限の情報を有する実物資料を中心に展示。3)資料には可能な限り種名を付す。4)地域特性を明確にするために他地域と比較する展示を一部に設ける。5)近い将来に予定されている自然博物館の全面的展示更新（展示ケースを含め）に向けた試行的展示。

展示テーマは三浦半島の昆虫であり、以下の5つのサブテーマから構成されている。①四季にみられる昆虫、②三浦半島の昆虫相の特色、③昆虫の生息環境、④水辺の昆虫、⑤三浦半島を代表する昆虫の生活。①～④は同一展示ケース、⑤は他の独立した展示ケースに展示した。

筆者が昆虫部門を担当する以前は昆虫専門の職員が不在であったことから三浦半島の昆虫の資料収集、調査研究が充分とはいえなかった。そのため展示は実物よりパネル中心であり静的かつ百科的である傾向にあった。こうした点を展示更新の際に可能な限り改善し、地方の特

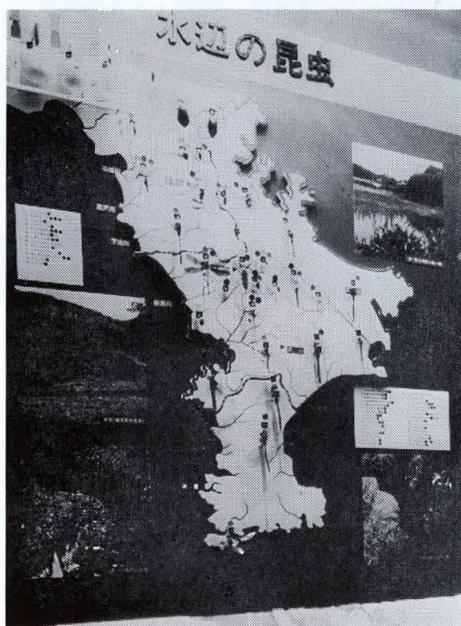
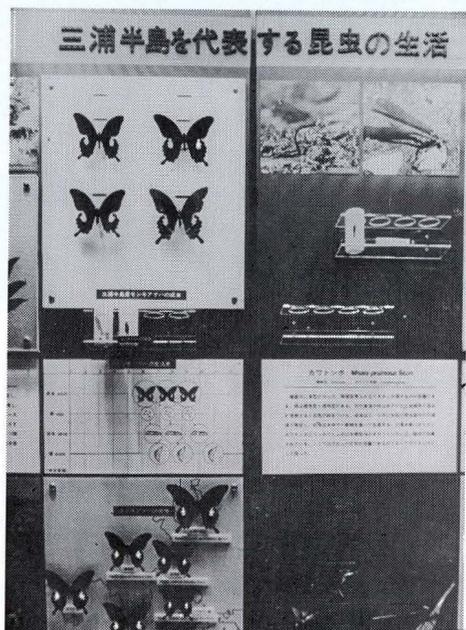
色を生かした展示を目指した。

展示に用いた資料、写真は筆者および博物館を活用している昆虫研究会会員らにより収集、撮影された。展示資料の中にはきわめて稀なものや撮影が容易でないものが多くあり、資料の収集状況をみながら展示設計を進めた。このために非常に多くの資料の中から目的に沿った資料を選定し、一点一点ラベル類や説明パネル、写真類と対応させるといった作業に多くの時間を費やした。こうして出来上がった展示計画や展示内容については館職員に回覧した。

今後の課題と計画

多くの実物資料を展示することは観覧者側からすれば本や写真、映像などでは得られない情報を多く得られるという長所がある一方、資料の劣化を招く。常設展示の場合は劣化した資料を新しい資料に交換可能な態勢になければならない。ある資料を展示すべきか否かは常に考えさせられるところである。

小型な昆虫資料の各々に種名ラベルを付すると資料よりもラベルが大きく目立ってしまい、見苦しい展示となる。展示スペースが充分広い場合はまだよいが、限られた狭いスペースしかないときには工夫を要する。今回の展示更新では、展示資料に番号や、適宜色別の標識マークを付し、パネルに表示したインデックスを引くことに



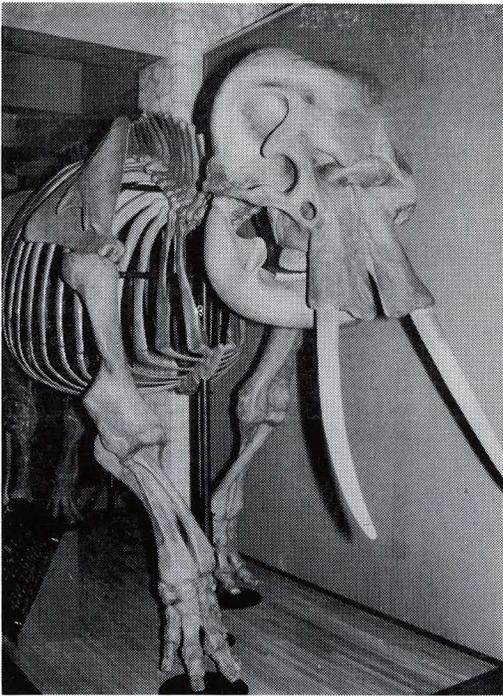
よって多くの情報が得られることを可能にした。情報を引き出すのに少し手間取るが、観覧者が必要に応じて利用できるという長所がある。

昆虫の生活環境で展示した環境のイラストの大パネルは三浦半島の最も特徴的な環境要素を意図的に盛り込んだものであり、写真では表現できないものである。このイラストが完成するまでに現地調査、下図作成、展示、業者との打合せ、手直しなどを繰り返した。植生も配慮して描かれたイラストであり、植物との関連、人間の生活環境との係わりなどに発展させていく手掛りの役割りを果たすことが期待される。

調査研究活動の成果を基盤に更新された展示であり、

(大場信義)

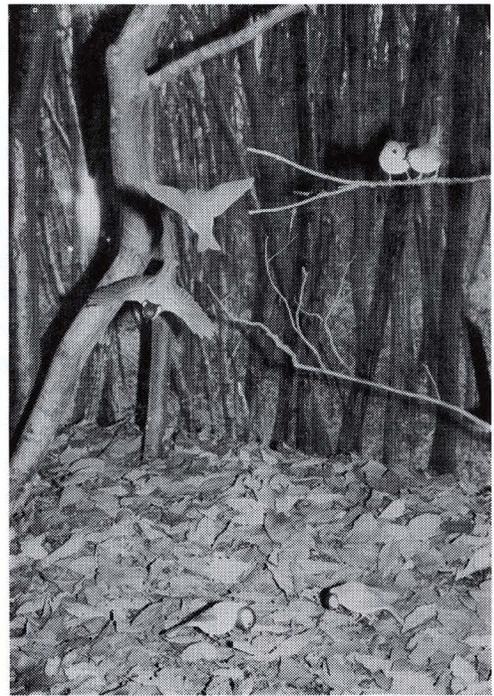
東京都高尾自然科学博物館の新しい展示から



ナウマンゾウ

1976年、東京都中央区日本橋の地下鉄工事現場から、ナウマンゾウの化石骨が発掘された。一個体分として頭と体の骨がそろって発掘されたのは初めてという貴重な標本のため、当館では復元して展示する計画を立てた。そして本年1月、レプリカにより、復元したナウマンゾウの全身骨格が完成し、展示公開した。

また、同時に発掘された別個体のナウマンゾウの下顎骨のレプリカも展示している。



「カラ類の群れ」のジオラマ

野鳥展示の中で傷みのひどかった「カラ類の群れ」のジオラマを展示更新した。

冬の雑木林を混群となって移動するシジュウカラ・ヤマガラ・エナガ・メジロなどの様子を表現したものである。今回は、剥製に代えてバードカービングによる鳥を使った。木を彫りあげて作った鳥ではあるが、枝にとまったり、飛んだり、地上で餌をとったり、と生き生きとした姿が見られる。

(新井二郎)

 会 員 館 園 の 紹 介

福 井 県 立 博 物 館

—特に自然展示について—

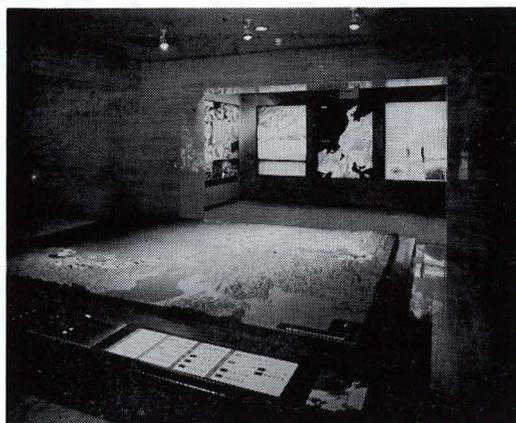
福井県立博物館は、59年4月、福井市内の幾久運動公園に隣接して開館した。当博物館は人文系を主体とし自然系を加味した総合博物館として性格づけられている。

開館までには、昭和51年に博物館構想がもち上って以来約9カ年の歳月がかかっている。昭和55年に県教育庁文化課内に「博物館建設準備係」が設置されてからは急速に博物館建設の準備作業が進展していた。建築基本設計（コンペ）・実施設計（昭和56年）、展示基本設計（昭和56年）・同実施設計（昭和57年）と計画を固め、建築工事（昭和57・58年）・展示施工工事（昭和58年）と博物館の形ができていった。時あたかも、県政の中心課題である「文化のふるさとづくり」の推進のなか博物館は開館した。

延面積約9,000㎡の博物館は、自然・考古・歴史・民俗・産業の展示で構成されている。この中で「自然展示」は動線の最初に位置し、続く考古・歴史展示の導入部の役割を果たしている。自然展示は、展示ホール（約150㎡）と常設展示室Ⅰ（約145㎡）の約300㎡である。自然展示の展示構成は、ふるさとの大地（展示ホール）と大地のおいたち（常設展示室）の2つの主題からできている。「ふるさとの大地」は“福井の地質（立体模型）”と“地形・気象・動植物（パネル）”とで現在の福井県の自然環境を概説している。特に、地質立体模型はコンピューターを利用した切削方式で製作され、5万分の1の縮尺で福井県の地形と地質が一目でわかる。さらにこの模型は福井県に接する日本海の海底地形も表現し、一般になじみの薄い海底の情報もとり入れる工夫を試みた。

常設展示室Ⅰの「大地のおいたち」は“われらの祖先”・“古生代・中生代”・“新生代”の3つの項目から構成されている。“われらの祖先”は古生代から新生代まで特徴的な古生物の模型をみながし的に展示した。北陸地方ではこのような古生物の模型をみる機会が少ないため、子供たちの人気を集めている。“古生代・中生代”と“新生代”の項目では、それぞれ福井県の地史とゆかりの深い時代の古地理図の内照パネルを6枚中心におき、その前面に各時代の特徴的な岩石・化石を展示し、福井県の地史の概説をし、ひき続く考古分野の展示の導入とした。つまり、約5億年前から当地に人間が住みつくまでの大地の生いたちをタイムトンネル風に構成した。

その他自然関係の展示としては、共通のビデオライブラリーの中に「福井四季」・「東尋坊の自然」・「福井の資



展示ホールの地質立体模型

源と私たち」の3本の番組を入れた。常設展示で不足した生物関係の“展示”を映像によって補う工夫をしてみた。ちなみに、このビデオライブラリーは光ディスクによるビデオディスクで26本の番組をマイクロコンピューターで制御する方式で当博物館の特色の一つとなっている。なお、コンピューターによって毎日何回スイッチが押されたか記録できるようになっており、4～9月まで3番組で計59,96回の視聴回数である。

教育普及活動における自然分野の活動は、59年度は、自然教室—郷土の生いたち（7,8月）・夏休みの標本採集のしかた指導会（7月）・渡り鳥の観察会（10月）を行い、2月に講演会「恐竜の進化」（長谷川善和・横浜国大教授）を予定している。

ともあれ、開館後数カ月がたち、何ごとも初体験の試行錯誤でがむしゃらに取り組んできたが、今後の自然分野の課題として、展示・教育普及・研究を一層充実してゆくことでは言うまでもないが、人文系の中での自然展示のあり方や活動のあり方について熟考してゆくことではないかと考えている。また、館全体として高度情報化社会の中で立ち遅れないよう、資料管理にコンピューターを導入すべく努力を続けることが目下の課題と考えている。（学芸員 東 洋一）

所在地 福井市大宮 2—19—15

電話 (0776) 22—4 6 7 5

交通 国鉄福井駅前から京福バス「田原町・福井病院」線または「大宮・幾久」線で大宮2丁目下車

新年おめでとうございます

映像情報検索応答システム

ビデオカート

ASAICA® 株式会社 **アサカ**

〒160 東京都新宿区新宿NSビル 電話(03)349-1515(代)

●販売/株式会社シバソク ●ソフト制作・サービス/株式会社エイ・エス・シー

人で応える、こころで創る。

各種展示会・ショールームなどの企画・設計から施工・運営まで豊富な実績を活かします

We think better, do the best.

ADVERTISING & MARKETING

AD.MELCO

株式会社アド・メルコ

本社:〒107 東京都港区南青山1-1-1(新青山ビル東館) TEL(03)475-3151(代)

イトーキ ミニビデオテーク

多量のビデオテープを集中自動管理

ビデオテープの検索、装着、再生から返却までをすべて自動化しました。

詳しい資料の御請求は下記まで

株式会社 イトーキ OA機器部

03-567-0651 (代表)

「見る」から「参加する」

博物館づくりを提案します。

UCHIDA

ユークラムス

UCMS

UCHIDA CULTURE MUSEUM SYSTEM

内田洋行 教育機器事業部

東京・大阪・札幌・福岡

東京営業部/本部 〒104 東京都中央区新川2-4-7 ☎03(555)4194

教室、会議室から会館大ホールの映写装置まで

あらゆる会場に最適の **EIKI**

映機16ミリ映写機

EIKI **映機工業株式会社**

このマークが保証する

本社 〒530 大阪市北区万才町4番12号(浪速ビル) ☎(06)311-9475
 東京 〒105 東京都港区虎ノ門3丁目1番11号(第七森ビル) ☎(03)432-3356
 九州 〒812 福岡市博多区博多駅東1丁目11番15号(博多駅東口ビル) ☎(092)431-0222
 北海道 〒065 札幌市東区北35条東9丁目491 ☎(011)711-9222

展示用 **模型** 製作

地形・建築・機械・交通その他模型全般

〒101 千代田区神田須田町1-25(交通博物館内)

株式会社 榎本模型製作所

TEL 255-0791・FAX 255-0792

ユニークなディスプレイ

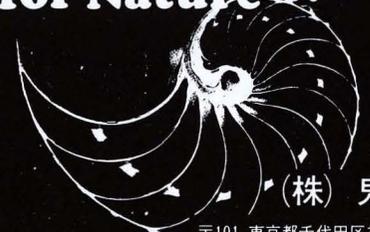
企画・設計製作・施工

おおみ **om 大味**

〒116 東京都荒川区町屋6-6-5

TEL 892-2796(代)

for Nature...



(株) 鬼工房

〒101 東京都千代田区神田神保町1-50

千代田クレースビル TEL 294-4061(代)

博物館

企画★設計★制作

学研 環境システム部

〒146 東京都大田区仲池上1-17-15

PHONE (03) 754-5621

科学館・博物館の展示

→ 企画・設計 制作・施工

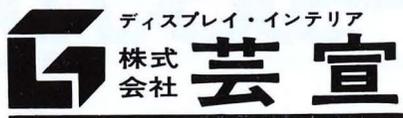
京都科学標本(株) 科学展示部

本社(京都) TEL(075)621-2225(代)

東京営業所 TEL(03)291-5231(代)

新年おめでとうございます

科学展示の設計制作に実績のある



東京都練馬区旭町2-25-12
〒176 TEL 03 (939) 3221-8

鉱物標本専門(大学・博物館向け)
分析・鑑定部門併設

株式会社 鉱物科学研究所

〒176 東京都練馬区豊玉中4-13
電話 03-993-1418
ココサ イシイワ

プラネタリウム
天体望遠鏡・太陽望遠鏡

株式会社 五藤光学研究所

〒183 東京都府中市矢崎町4-16
TEL. 0423-62-5311(代)

超大型写真づくりで40年。
私たちは、きびしい要求をひとつひとつ消化してきました

クリエイティブ・フォト
株式会社 ササオ

〒110 東京都台東区台東1-32-2 ☎(03)834-3565代

斬新な企画とアイデアで科学をディスプレイする。
Science & Display これが目標です。

株式会社 サテタイト

東京都渋谷区神宮前3-10-12
TEL. (03)478-0055(代表)

各種プラント・施設・設備・機器精密模型、
展示用・実験用・教材用模型の設計・製作

株式会社 サンテック

〒273 千葉県船橋市本町2-2-7
電話 (0474)33-4511(代表)

空間に「夢」と「心」を演出する……



三和アドバタイジング(株)三和通信社

本社 東京都中央区八重洲2-6-7(〒104)
電話 (03)281-1051(代)

教育用理化学器械・展示用大型実験装置



島津理化学器械

〒101 東京都千代田区内神田1-14-5
TEL (03) 295-0210

ひろく人間に通じていたい

人と空間のトータルアドバイザー

科学館・博物館の企画・設計・施工

商工美術株式会社

本社 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-57-6

東京03-402-7601 大阪06-251-4141 札幌011-222-5261

博物館づくり225館の経験をもつ

創造集団

株式会社 丹青社

第2営業センター(文化施設部門)

〒101 東京都千代田区外神田3-8-9昌徳ビル TEL 03(255)0833

新年おめでとうございます

大容量映像ファイルシステム

レーザービデオディスクプレーアLV-500シリーズは、映像情報を大量に、そして確実に伝達する映像ファイルシステムです。博物館・科学館・動物園等のディスプレイや催物等の会場案内に使用でき、膨大な数にのぼる展示物も動画と静止画でディスプレイできます。しかも、VTRにくらべ摩耗部分がないため、長期間鮮明な画像が得られます。

LV SERIES LV500DX / LV500D / LV500R

ティアック株式会社 〒180 東京都武蔵野市中町3-7-3
☎(0422)53-1111

トータルメディア

株式会社 開発研究所

本社 〒104 東京都中央区八重洲2丁目2番7号 電話03-276-8181大代表
分室 〒110 東京都台東区台東1丁目3番1号 電話03-835-4103
科学万博政府出展テーマ館等現地事務所 〒305 茨城県筑波郡谷田部町大字上横場字一信塚443 電話02975-4-2855



Display

株式会社 東京スタジオ

本社・東京都豊島区駒込1-14-6 TEL 03-946-3481

マリス

子供達の限りなき可能性の扉を
あたたかく開き続けて行きたい。

サイエンスコミュニケーター 東京前川科学株式会社

〒101 東京都千代田区神田多町2-1 (03) 254-2604 (代)
東京・大阪・札幌・福岡・京都

壁面展示を演出・空間に吊る・(釘打ち不用) コルダライン

ピクチャーレールPAT.PD (フィラティール・シグマ応用)

株式会社 中村多喜弥商店

NAKAMURA TAKIYA CO., LTD

- 本社 〒542 大阪市南区島之内1-10-12
☎06-253-0331(代) ファクス06(253)0339
- 東京営業所 〒135 東京都江東区三好3-8-15
☎03-642-3801(代) ファクス03(543)0096

ユニークな企画と
定評ある表現技術

M 西尾製作所

〒607 京都市山科区榎辻池尻町48-4
電話 京都(075)594-0181(代)

明日への伝承

ディスプレイ…企画・設計・施工
精密模型…企画・設計・製作

日精株式会社 展示造形本部

〒105 東京都港区西新橋1-18-17 明産ビル TEL(03)502-3471(大代)

- 新鮮なアプローチは、多くの瞳を輝かせる●
ディスプレイ・エキジビション / 企画・設計・施工

b total display NITTEN

東京都台東区東上野6丁目21番6号(〒110)Tel.03-843-4111
大阪Tel.06-361-2031/名古屋Tel.052-471-5166/金沢/神戸

石のことなら
ニチカ

地学標本・機器全般取扱

石のことならニチカ

日本地科学社

京都市中京区麩屋町通御池上ル
〒604 電話(075)222-2263

鉱物岩石化石標本 地形模型・歴史科模型 製作

株式会社 ノーベル社

〒113 東京都文京区本郷3-9-5 TEL. 03(811)7381
工場 〒203 東京都東久留米市浅間町3-24-18 TEL.0424(21)2415

新年おめでとうございます



私達はより多くの
ノウハウを
提供します。

ノバ・工芸株式会社
文化施設事業室

博物館・美術館におけるディスプレイの企画・設計・制作

本社 / 東京都中央区八重洲2-6-13 TEL03(272)0031



レーザーディスク映像展示事例集
“Laser Vision System Case Book”を
無料頒布中



パイオニア株式会社 本社システム営業部SN係:
〒153東京都目黒区目黒1-4-1 ☎(03)494-1111



確かなかたちで、伝えたい。

私たちは博物館の展示・創造を通して、
明日へのコミュニケーション活動を広げています。

株式会社 乃村工芸社
文化施設部

本社:東京都港区芝浦4-6-4・電話03-455-1171代表
東京・大阪・札幌・仙台・岐阜・神戸・岡山・福岡・鹿児島

本年1月28日に新社屋にて業務開始。
新しい白水社がスタートします。

WORK JOY



白水社

Hakusuisha

■ 東京都中央区日本橋茅場町2-2-8 ☎(03)669-1221 ■ 大阪府南区東清水町54 ☎(06)252-4501
■ アクアクラフト事業部 東京都港区六本木5-17-1 AXIS B1 ☎(03)587-2115

パブリックスペースをDISPLAYする
企画・設計・施工のエキスパート



株式会社フジヤ
マーケティング室

● 東京 (03) 344-2071 ● 大阪 (06) 345-2451 ● 名古屋 (052) 563-4621
札幌・盛岡・仙台・東京・横浜・新潟・金沢・名古屋
京都・大阪・和歌山・神戸・徳島・広島・北九州・福岡

展示用・研究資料

鉱物・化石標本専門

凡地学 研究社

東京都文京区千駄木3-33-1
TEL. (821) 6941 〒113

情報化時代に対応する
図書館・視聴覚

システムづくり



丸善

設備設計から施工まで
トータルにご用命を承ります
〔教育設備事業部〕
〔〒103〕東京都中央区日本橋 2-3-10
☎(03)272-7211 ● 全国各地に支店・営業所

プラネタリウム・システム建設のための
資料をおとどけます。ご一報ください。



MINOLTA



大阪(06)
271-2251(代)

ミノルタカメラ株式会社

プラネタリウム課



東京(03)
435-5511(代)

ふれあいを大切にする
スペースづくり



DISPLAY & INTERIOR
株式会社ムラヤマ

〒112 東京都文京区後楽 2-13-10 Phone: 03-813-1201
東京 / 横浜 / 大阪 / 名古屋 / 神戸

MODEL

活きている展示にヤマネの模型

株式会社



ヤマネ

展示・営業企画室

本社: 〒561 大阪府豊中市庄内宝町2丁目8番10号
TEL (06) 332-0157代表
FAX (06) 332-7086

会 員 館 園 の 消 息

地域郷土学習の手引きに
御利用ください!!

府中市立郷土館



府中市立郷土館では昭和47年12月「武蔵府中郷土かるた」を発行して以来、12年目第11版になった。“いちばんはじめに武蔵の国府”ではじまる読み札は、市民から公募した約600点の中から選定し、調整したものである。

読み札は市内の文化財、名所、旧跡や自然をテーマに詠まれたもので、裏面には解説を加えてある。

郷土館では、市内の小学校3年生を対象に毎年無償で配布し、教材や、家庭での史跡めぐり、オリエンテーションのコースの資料として好評を得ている。

また、さらに当館は読み札の句の場所、全て48カ所に標識を建てると共に、地図入り、文化財所在一覧図等を加えた小冊子を発行した。御希望の方は、下記まで御連絡ください。

☆問い合わせ・郵送先

府中市立郷土館 ☎183 府中市宮町3-1

☎ 0423-64-4111 内 2031・2039

A「武蔵府中郷土かるた」

- ・ 絵札、赤羽末吉（昭和55年国際アンデルセン賞 画家賞受賞者）

- ・ 1組 500円、郵送代 350円

B「武蔵府中郷土かるためぐり」

- ・ A 5判, 23P, 表裏4色, 本文2色
- ・ 1冊 100円, 郵送代 170円

第14回博物館事業研究会

テーマ 展示の基礎——展示と広報
 期間 昭和60年3月18日（月）～20日（水）
 会場 国立科学博物館
 内容 広報活動の現状（話題提供と研究協議）
 ①PR紙 ②展示の解説資料
 広報紙のデザインについて（講義と質疑）
 博物館における広報活動の進め方について
 （研究協議）
 科学万博—つくば'85（自由見学）
 対象 全科協会員館園の職員
 参加費 3,000円（会場で徴収）
 申込み 会員館に送付済みの実施要綱に添付してある
 申込書の郵送または電話で2月28日（木）
 までに全科協事務局へ申し込んでください。

〔新入会〕

（維持会員）

○株式会社ヤマネ 社長 阿澄 昌夫
 ☎561 大阪府豊中市庄内宝町2-8-10
 ☎ (06) 332-0157 代

〔人事異動〕

○穂別町立博物館
 新館長 桜庭 勝美 前館長 菅原 康次

あ と が き

○本号の編集委員会は、11月15日に開催し、新春早々の発行を期しましたが、一部の原稿が間に合わず発行が遅れてしまいました。編集方針の見直し、ニュースのあり方も真剣に話題になっており、発行の遅れをなんとか取り戻したく、御協力くださるようお願いいたします。

○ニュースの編集委員会で、海外の科学博物館のリストをテーマ別や国別で少しずつ紹介してはどうかという話が出ています。特定のテーマで世界の博物館を調べておられる方がおられましたら、お知らせくださるようお願いいたします。

ニュースの原稿をお寄せください

会員館の皆様からの御投稿をお待ちしております。展示、教育活動、日常の仕事上の苦労話、新しいアイデア、特別展の企画、印刷物の紹介その他、科学博物館の職員が読んで参考になりそうなこと、会員館に流したいニュースを御執筆くださるようお願いいたします。